



宿題

私は若い頃、長く高学年の学級担任をしていた時期がありました。2年間同じ学級を受け持つことを「持ち上がり」と呼びます。一長一短はありますが、当時は当たり前のことで、5年生から6年生への「持ち上がり」を数回繰り返しながら、高学年の学級経営にあたっていました。「持ち上がり」について、ここで詳しく触れることはいたしません。2年間同じ子供たちを担当するので、児童や保護者との信頼関係や学級活動の継続性等により、学級における様々な活動に、積み重ねによる熟成や発展があったことは事実で、私も、持ち上がりの中で、学級経営上のメリットを強く感じながら子供たちと接していました。

そのような状況の中から、以前の校長室だより(2021年6月11日発行第10号)で紹介した「修学旅行の自主研修」が生まれ、日常的な授業や学級活動においても、活動の停滞やマンネリ化を打破したり、発展的に取組のグレードアップを図るためのアイデアや工夫を形にしたりしてきました。

今回取り上げる「宿題」については、新任から数年間は何も迷うことなく、各教科ごとに復習や予習として必要な内容を吟味しながら毎日全員に画一的に出し、授業で活用したり、全員分を回収して評価・返却したりすることを日々繰り返していました。ところが、ある学級を5年生から6年生に持ち上がった年に、それまでのやり方を反省させられる出来事がありました。

その頃は、持ち上がりで関係性が深まった子供たちに対して、宿題の内容にも、より深いものを要求するようになっていました。例えば、6年生の社会は歴史の学習が主で、私は史実を基にしながら人物の心情について考える授業を心がけていましたが、その前提となる調べ学習を予習として宿題に出すことがあり、特に社会の宿題には、より多くの時間が必要だったと思います。社会に限らず、毎日の宿題の量や質は、グレードアップというよりも、若干エスカレート気味でした。そんな時、ある保護者から悲痛な訴えをいただきました。

それは、体操競技に打ち込んでいる男子児童の母親からでした。のちに国体に出場し、オリンピックも目指したその子供は、毎日下校後に体操教室に通っていました。21時過ぎまで練習して帰宅後、夕食を済ませてから学校の宿題に取り組んでいたのです。その男子は極めて責任感が強い真面目な男で、一度も宿題を忘れたことはありませんでした。激しい眠気に耐えながら、さぞかし苦しかったことでしょう。その母親から、毎日の習い事(体操の練習)と学校の宿題を両立させることの限界を訴えるお手紙をいただきました。皮肉なことに、それとほぼ同時期に、別の保護者からは「子供が帰宅後に時間を余してゲームばかりしているので宿題をもっと増やしてほしい」という訴えも届いていました。

その時私は、この男子児童に限らず、帰宅後の生活にはそれぞれに多様な状況や事情があり、家庭環境も多様な中で、画一的に宿題(家庭学習)への取組を要求することは難しいと、強く感じました。

私はその男子児童には個人的にお詫びをした後で、学級全体に提案する新たな「宿題」の仕組みについて、自分なりに悩みながら、暫く練りに練って考えました。

その時の私の考えと実践(保護者へのお知らせ)の概要を、**※裏面に掲載いたします**。もちろん、それが正解だとも理想的な形だとも思いません。私が学級担任として、もがき苦しみながら試行錯誤してきたことの一例を紹介することが、少しでも後進の参考になれば幸いです。いずれにせよ当時の私は、「森を見て木を見ず」という状態でした。今更ながら反省しています。

郡山小学校でも、宿題に限らず、個々の児童が置かれている環境や状況に敏感であることは、これからはますます重要であると感じています。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年10月21日()年()組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp (校長直通)

保護者各位

※1995年のおたよりです
6年2組担任 小崎 功二 (当時)

「宿題チャレンジ」についてのお知らせとお願い

このたび、宿題への取組を、下記ような方法で行うことにいたしました。

宿題の問題は、授業の復習や、反復練習を必要とするものを中心に、吟味して毎日用意し、間違いの修正も、毎回確実に行います。ただし、学習の理解と定着は、授業時間の指導の中で責任を持って行います。この取組は、あくまでも、家庭学習の習慣を身につけさせることと、次の日の準備を自分で整えようとする意識を高めることを目的として行うことをご理解ください。子供自身が「やらされている」と感じずに、進んで取り組めるように、全員に渡してやってこいというのではなく、自分がやれる日にだけ持って帰ることにいたします。下記活用例A～Dを参考にして各ご家庭のご都合や方針に合わせてお声がけいただき、ご活用いただければと考えております。

※活用例(宿題チャレンジのプリントは、毎日用意いたします。)

A 「毎日やらせる」

- ・特に厳しい習い事もなく、学校中心に、子どもの意識を高めたいご家庭。
- ・少しでも、継続的に基礎的な反復練習をさせたいとお考えのご家庭。
- ・お子さんの忘れ物が多く、自律のための習慣づけが必要とお考えのご家庭。
(このような場合は、ぜひ、毎日やらせて下さい!!!)

B 「習い事のない日だけやらせる」

- ・大切な習い事があり、その日はお子さんに負担をかけたくないご家庭。
- ・塾などでの学習後まで、宿題は必要ないとお考えのご家庭。

C 「休みの前日はやらせない」

- ・休みの日は、家族で過ごす時間を大切にし、子どもも宿題から開放したいとお考えのご家庭。

D 「内容によって選択」

- ・漢字が心配なので、漢字の練習のときは必ずやらせたいが、算数は、特に心配ないので、授業で十分・・・などという場合。

※ その他、どのようにご活用いただいても結構です。また、途中で方針が変わることがあってもよろしいと思います。ただし、どのような場合でも、子供だけにまかせっきりにせず、子供と話し合った上で、納得のいく形で、継続的に取り組ませてください。
ご家庭のご理解とご協力を、ぜひ、お願いいたします。

宿題チャレンジ！()枚 名前()

- ・持ち帰ったら家でやって、次の日の朝に、先生の机の上に出すこと！
- ・返されたとき、間違っていたら、すぐに直してからファイルにとじなさい！
- ・忘れた人も、★必ず学校で、帰りまでにはやって出しましょう！
(紙をもらって、下の問題だけやりなさい。＝チャレンジ枚数には入りません)
- ・これから何枚できるか、チャレンジしてみよう！

※明日の授業の予定を書きなさい。＝※週の予定表を写す。(休みなら、次に授業がある日)

| | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|
| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 教科 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | |

★宿題に取り組んだり直したりする時間を授業の中の隙間を利用して確保していました。
※週の詳しい予定表を作成して、前の週の金曜日に渡していました。

※次の問題をやりなさい！

ここに問題を印刷

※おうちの方への宿題！(いくつ見つけられるか、チャレンジしてみてください！)

↓ 子どもの良いところを探して、1日1つずつ書いていただきたいと思います！

(※当時「宿題チャレンジ」は、毎回 B5判 1枚で印刷していました。)